サマリア MCP・サマリア Agent で
特許業務はどう変わるか

― 特許調査・拒絶理由通知対応への影響と、新しい AI 活用法の考察 ―

2026 年 11 月 20 日
Claude Fable 5.2

本レポートは 2026 年 11 月 20 日時点の公開情報にもとづく。パテント・インテグレーション社のプレスリリース（添付資料 2 件を含む）、利用マニュアル、リリースノート、官公庁資料などの一次情報を優先した。**【事実】**は出典で確認できた事項、**【分析】**は筆者の分析・推論、**【未確認】**は出典で確認できなかった事項を示す。本文中の上付き番号は文末の参考文献に対応する。サマリアの実機による操作検証は行っていない。

1　要旨

- **【事実】**サマリアには 2026 年 9 月 8 日に「サマリア MCP」、11 月 16 日に「サマリア Agent」（β 版）が加わった。前者は Claude や Copilot など外部の AI アプリから、後者はサマリアの画面内で、文章で指示するだけで特許データベースの検索・取得・分析ができる。いずれもコーポレート／ビジネスライセンスの契約者は追加費用なしで使える [1),2),3)]。
- **【事実】**サマリア MCP で取得できるデータは、当初の公報の検索・取得から、10〜11 月に審査経過書類（包袋）、日本の書誌・経過情報、配列表、意匠・商標、INPADOC リーガルステータスへ広がった [4),5),6)]。
- **【事実】**MCP 利用者アンケート（有効回答 17 件）では、総合満足度が平均 4.41 点、14 件が週数回以上利用し、用途は先行技術調査が最多（12 件）だった。導入時の困りごとは、社内のセキュリティ承認（7 件）と指示の出し方（6 件）が上位である [1)]。
- **【分析】**変化の核心は、(1) AI の回答が実際の特許データに裏づけられる、(2) 検索式と件数が残り、調査の過程を人が検証・再利用できる、(3) 何をどの順で調べるかという段取りまで AI に任せられる、の 3 点にある。特許調査の重心は「検索式を書く」から「観点を設計し、AI の調査経過を確かめる」へ移る。

- **【分析】**拒絶理由通知対応では、通知書の整理、引用文献の該当箇所の確認、意見書案のたたき台づくりが一つの対話で進む。担当者の時間は、審査官の認定が正しいかの見極めと、補正か反論かの方針決定に振り向けられる。
- **【分析】**新しい活用法として、検索式の品質診断の定常化、「探索→網羅→査読」の三段運用、審査経過と権利状態の定点観測、出願前の「仮想拒絶」など 12 案を第 4 章に示す。
- **【事実】**留意点として、Agent は β 版であり、効果を示すデータ（アンケート、特許検索競技大会の過去問検証）はいずれも同社の発表である。AI の回答には誤りがありうるため最終判断は専門家が行う前提とされ[3]、2027 年 2 月 1 日には料金が 20%改定される[7]。

2　追加されたサービスの内容

本章は、出典で確認できた**【事実】**を整理する。分析や未確認の箇所だけ個別に明示する。

2.1　経緯

表 1　サマリアの関連機能の時系列

時期	出来事
2024 年 5 月 27 日	拒絶支援ワークフロー機能を搭載（同社は「ワークフロー型 AI エージェント」と位置づけている）[1]
2026 年 2 月 12 日	調査支援ツールを特許検索競技大会の過去問で検証し、上位 100 件で再現率 85%以上と発表[8]
2026 年 6 月 24 日	弁理士法第 75 条への対応を強化（利用規約の改定、注意喚起の表示、ダウンロード前の確認）[9]
2026 年 9 月 8 日	サマリア MCP の提供開始[1],[2]
2026 年 9 月 10 日	類語シソーラス拡張を使った再検証で、3 分野とも上位 30 件で再現率 100%と発表[10]
2026 年 10 月	MCP の完全 ZDR 対応（10 月 25 日適用）、配列表・日本の意匠・商標への対応（10 月 27 日付）[5]。包袋、日本の書誌・経過情報にも対応[4]（10 月 6 日・14 日付リリースノートの見出しで確認、本文は**【未確認】**）
2026 年 10 月 20〜31 日	MCP 利用者アンケートを実施（11 月 10 日公表）[1]
2026 年 11 月 16 日	サマリア Agent（β 版）の提供開始（11 月 19 日公表）[3]
2026 年 11 月 17〜18 日	料金改定の告知（2027 年 2 月 1 日から 20%値上げ）[7]。INPADOC リーガルステータスの搭載、動画講座の公開[6]

2.2　サマリア MCP

MCP（Model Context Protocol）は、AI アプリを外部のデータやツールにつなぐためのオープンな標準規格である [11]。サマリア MCP は、Claude、Claude Code、ChatGPT、Microsoft 365 Copilot、Gemini Enterprise のチャット画面から、サマリアのデータベースを日本語の指示で検索・取得できるようにする [12]。取得できるデータを表 2 に示す。

表 2　サマリア MCP で取得できるデータ

データ	できること	主な業務
特許文献	検索、出願人別・年別・分類別の件数集計、本文・請求項・書誌・図面の取得、番号の照合、特許分類の説明 [1),4)]	先行技術調査、技術動向分析
審査経過書類（包袋）	拒絶理由通知書・意見書・補正書などの取得。日本分は特許庁 API 連携の設定が必要、米国分は申請不要 [4),13)]	拒絶対応、権利範囲の確認
日本の書誌・経過情報	権利の状態・段階、被引用、子出願、関連審判などの取得 [4)]	権利状態の確認
INPADOC リーガルステータス	EP・JP・CN・DE・US・WO・KR・TW・AU の法的イベントの取得（週次更新）[6)]	外国の権利状態の把握
配列表	有無の確認、配列の取り出し、本願と引用文献の間の照合 [5)]	バイオ・医薬分野の調査、拒絶対応
意匠・商標（日本）	検索・取得。商標は標章の画像も取得できる [5)]	デザイン・ブランド動向の分析
類語シソーラス（MCP 版）	審査官の認定事例にもとづく類語の提案。約 1 万件の事例による軽量版 [12)]	検索語の検討

- **利用条件**　コーポレートまたはビジネスライセンスの契約者は追加費用なしで使える。AI アプリ内での指示はサマリアの指示数を消費しない [2),12)]。
- **接続**　OAuth で認証する。Claude の Team・Enterprise プランなどでは管理者だけが設定できる [12)]。Microsoft 365 Copilot は、管理者が組織共通のコネクタを作り、利用者が個別に接続する 2 段階で、利用者ごとのトークンにより誰がいつ検索・取得したかを記録できる [14)]。
- **セキュリティ**　参照機能のみで、AI アプリ側からサマリアのデータを書き換えることはできない。送信された情報は AWS 東京リージョンの外に出ず、クエリ内容を保持しない ZDR

（Zero Data Retention）に対応する。AI アプリ側でのデータの扱いは、各アプリの規約と設定に従う [12),5)]。

- **使い分け**　同社は、条件を変えながらの探索や 1 件の深掘りには MCP、決まった手順の大量処理にはサマリア本体が向くと説明している [1),12)]。

2.3　サマリア Agent（β 版）

サマリア Agent は、サマリアの画面内で、やりたいことを文章で入力すると、AI が特許検索、公報の取得と読解、分類コードや同義語の確認、包袋の取得を自分で組み立てて実行し、結果をまとめて回答する機能である [3),6)]。同社は開発の背景として、MCP のアンケートで社内のセキュリティ承認が最大の壁だったことを挙げ、外部の AI を接続できない顧客にも同じ使い方を届けるとしている [3)]。

- **調査の経過**　回答の上に、AI が行った調査の種類・回数・検索式・件数が表示される。検索式と件数は自社の調査に転用できる [3)]。
- **根拠の表示**　公報番号を挙げて質問すると、AI が本文と図面を取得して答える。回答の該当箇所に公報の原図が表示され、根拠となる段落番号が添えられる [3)]。
- **ファイル添付と成果物**　Word・Excel・PowerPoint・PDF・テキスト・画像を添付できる。提案書、意見書案、比較表、スライドを会話の右側に作成して画面上で編集し、Word・Excel・PowerPoint に出力できる。保存のたびに版が残る [3)]。
- **指示数**　「調査ツール」がオンのとき、AI の処理ごとに指示数を消費する。送信 1 回あたりの見込みは入力欄の下に表示される [6)]。11 月 10 日公表資料に載った開発環境の画面（ダミーデータ）には「1 回 3〜216 指示」とあり [1)]、依頼内容によって消費の幅が大きいことがうかがえる**【分析】**。提供版での消費水準は**【未確認】**。なお、同じ画面にある機能案内（やりたいことから機能を案内するナビゲーション）は指示数を消費しない [15)]。
- **注意事項**　AI の回答には誤りが含まれることがある。数値や引用は「調査の経過」と公報の原文で確かめ、出願や意見書などの最終判断は専門家が行う前提とされている。包袋の取得には特許庁 API 連携の設定が要る [3)]。

【分析】上記の開発環境の画面では、回答の出典として「Summaria-MCP」と表示されている[1]。Agent は MCP と同じデータ取得の仕組みを、サマリア側の AI が呼び出す構成と推測される。MCP、Agent、本体の定型ツールの違いを表 3 にまとめる。

表 3　サマリアへの 3 つの入口の比較

観点	サマリア MCP	サマリア Agent（β 版）	本体の定型ツール
使う画面	外部の AI アプリ（Claude や ChatGPT など）[3]	サマリアの画面内[3]	サマリアの画面内
始めるまで	接続設定が必要[3]。社内承認が要る場合もある（アンケートでは 17 件中 7 件）[1]	設定不要[3]	設定不要
進め方	自由な対話。AI アプリ側のモデルが段取りを決める	自由な指示文。サマリア側の AI が段取りを決める[3]	決まった手順（ステップ）に沿って進める[16],[17]
過程の確認	AI アプリの表示による	「調査の経過」で種類・回数・検索式・件数を確認[3]	各ステップの結果とレポートで確認
指示数	消費しない[12]	消費する（調査ツールがオンのとき）[6]	消費する[16]
類語辞書	軽量版（約 1 万件）[12]	**【未確認】**	本体版（10 万件超）[18]
発明メモなどの入力先	AI アプリ（各社の規約に従う）。サマリアへのクエリは ZDR[12]	サマリア。FAQ の一般的な説明では、指示や文書の一部は外部の生成 AI の API に送られるが、学習には使われない[19]。Agent 固有の記載は **【未確認】**	同左[19]
向く作業 **【分析】**	探索、壁打ち、1 件の深掘り、社内文書など他の情報との組合せ	外部 AI を使えない環境での探索、成果物づくり	網羅的な母集団の作成、大量のスクリーニング、精密な拒絶解析

2.4　利用者アンケートの結果

表 4　サマリア MCP ご利用アンケートの主な結果

項目	結果
調査の概要	Web アンケート。MCP を利用中の顧客 56 名にメールで案内し、有効回答は 17 件（企業 13 件、特許事務所 4 件）。2026 年 10 月 20 日〜31 日[1]
総合満足度	平均 4.41 点（5 点 9 件、4 点 6 件、3 点 2 件）
お勧めしたい度	平均 4.53 点（5 点 10 件、4 点 6 件、3 点 1 件）

項目	結果
利用頻度	ほぼ毎日 2 件、週数回 12 件、月数回 3 件
主な用途（複数回答）	先行技術調査 12 件、無効資料調査 6 件、技術トレンド把握 6 件、公報のスクリーニング・分類付与 5 件、特定文献の読解・要約 4 件、他社動向・出願人分析 4 件、侵害予防調査 3 件、IP ランドスケープ 3 件、新着公報のウォッチング 2 件
導入時の困りごと（複数回答）	社内のセキュリティ・情報システム部門の承認 7 件、接続後の指示の出し方 6 件、MCP という仕組み自体 5 件、接続 URL や認証の手順 5 件、特に困らなかった 4 件
あると嬉しい説明（複数回答）	業務別プロンプト例集 13 件、回答例付きサンプル集 11 件、AI アプリ別の画面付き設定手順 9 件、よくあるエラーと対処法 6 件、社内稟議・セキュリティ審査用の説明資料 5 件
役立った場面（自由回答の趣旨）	母集団の作成時にノイズ含有率を計算させ、検索式の精度を評価できた／特許分類の定義まで参照でき、根拠の明確な集合を作れた／検索式が思い浮かばない場面で AI の提案を受けられた／SDI のノイズ除去

【分析】このアンケートは、同社が自社の利用者に対して行ったもので、回答は案内した 56 名の約 3 割にあたる 17 件である。継続して使っている人ほど答えやすいため、満足度の数字は高めに出やすい。一方、用途の分布と導入時の障壁は、これから導入する組織が計画を立てるうえで具体的な手がかりになる。

3　特許業務はどう変わるか

3.1　変化の本質

【分析】サマリアは 2023 年のサービス開始以来、公報の読解、分類、対比、ドラフトといった個々の作業を AI で支えてきた。今回の 2 機能が加えたのは、作業と作業の間をつなぐ部分である。変化は次の 3 点に整理できる。

- **実データに裏づけられた回答**　同社 CEO の大瀬氏は、汎用の生成 AI が使える情報を、学習済みの知識、ウェブ検索、データベース連携の 3 種類に分け、専門データベースで母集団を取って AI で読む構成が実務上もっとも現実的だと整理している [20)]。MCP と Agent は、この 3 番目の形を、検索式を書かない人にも開いた。

- **調査過程の可視化と再利用**　検索式と件数が残るため、AIの調査を人が検証でき、正式な調査に引き継げる[3]。「AIが調べた」ではなく「どの式で何件だったか」を報告できる。
- **段取りの委任**　2024年からの拒絶支援ワークフローは、決められた手順をAIが順に実行する型だった[16]。Agentでは、何をどの順で調べるかをAI自身が組み立てる。同社はこれを、開発部門や技術者が特許情報を使う入口と位置づけている[3]。

【分析】この結果、サマリアへの入口は図1の3つになった。入口ごとに得意な作業と費用のかかり方が違うため、使い分けの設計が成果を左右する。



図1　サマリアへの3つの入口と役割分担（公開情報をもとに筆者作成）

3.2　特許調査

【分析】調査の各工程で何が変わり、何が人に残るかを表5に示す。「導入後」の列は公開情報で確認できた機能にもとづくが、効果の大きさは案件と使い方による。

表5　特許調査の工程別にみた変化

工程	これまで	MCP／Agentの導入後	人に残る仕事
観点の設計	担当者が発明や製品の資料を読み、調査観点に分解する	資料を添付すると、技術的特徴の分解と観点の案をAIが示す[21]	調査目的（先行技術・侵害予防・無効資料）に応じた観点の取捨と、必須条件の設定

工程	これまで	MCP／Agent の導入後	人に残る仕事
検索式の作成	分類とキーワードを人が選び、試行を重ねる	AI が式を提案し、条件ごとのヒット数や 0 件になった原因を説明する [4]。類語は審査官の認定事例にもとづく辞書で補える [18]	式の妥当性の最終確認と、網羅性への責任
母集団の評価	サンプルを読み、ノイズ率を手作業で見積もる	ノイズ含有率の計算や検索式の精度評価を AI に頼める（利用者の声）[1]	許容するノイズと取りこぼしの水準の判断
スクリーニング	1 件ずつ読む	探索は MCP／Agent、大量の査読は本体のスクリーニングツールに回す [12],[17]	境界例の判断と原文の確認
権利・経過の確認	案件ごとに個別に調べる	経過情報、リーガルステータス、包袋を対話の中で取得できる [4],[6]	状態表示は目安として扱い、重要案件は一次情報で確認
報告	手作業で報告書にまとめる	比較表やスライドを成果物として出力できる（Agent）[3]	結論と推奨の記述

- **【事実】**同社技術顧問の角渕弁理士は、開発資料（透明ミルクティーの例）から観点を分解し、先行技術調査と侵害予防調査で観点と検索式を切り替える進め方を紹介している。初期の結果が約 20 分で得られたとされるが、これは一事例の目安である [21]。同氏は同社の技術顧問であり [2]、関係者による発信である点に留意したい。
- **【事実】**熊巳創氏は、Claude のスケジュールタスクとサマリア MCP を組み合わせ、毎週の新着公開公報から関心テーマの公報を自動で抽出・要約する運用を公開している。ある 1 週間では母集団 66 件から 4 件が報告対象になった。一度に多くを取得すると失敗するため、15〜20 件ずつに分ける必要があったという [22]。
- **【事実】**2026 年 9 月の検証で同社は、2024 年度特許検索競技大会アドバンストコースの過去問について、3 分野すべてで上位 30 件の確認により再現率 100%に達したと発表した。ただし正解特許は計 26 件で、同社自身が統計的な有意性を主張する規模ではないと明記している [10]。

【分析】この検証は、本体の調査支援ツールに類語シソーラス拡張（10 万件超）を適用した結果であり [10]、MCP や Agent との対話による探索の網羅性を示すものではない。MCP の類語

辞書は約 1 万件の軽量版である [12]。したがって「MCP／Agent で当たりを付け、本体で網羅性を確保する」という分担が合理的であり、同社自身もこの組合せを案内している [1]。

3.3　拒絶理由通知対応

【事実】サマリアの拒絶理由対応の道具は、今回の追加で表 6 の 3 層になった。

表 6　拒絶理由通知対応に使える 3 つの道具

道具	内容	位置づけ【分析】
拒絶支援ワークフロー（2024 年〜）	通知書を入力し、AI の自動解析、本願と引用文献の読み込みを経て、拒絶解析レポート（認定の整理、特徴語の対比、一致点・相違点の検討、補正案の提案）を得る。米国・欧州・中国などの通知書も解析でき、結果は日本語で出力される [23),16)]	定型で精密。1 件を深く解析する
エージェント機能（中間系）	応答方針コメント（最大 5 案）、意見書案・補正書案（Word のコメントと校閲記録つき）、内容のチェックリスト、補正ポイントの提案 [24),25)]	提出書面のドラフトと自己点検
サマリア MCP／サマリア Agent（2026 年〜）	通知書を添付すると、理由ごとの対象請求項・引用文献・審査官が指す段落を整理する。続けて、反論の構成と確認できていない点を分けた意見書案を作成する [3)]。包袋や配列表も対話の中で取得できる [4)]	自由な対話。初動の論点整理と周辺情報の収集

【分析】実務上の変化は次の 4 点である。

- **初動が速くなる**　通知書を受け取った直後に、理由・請求項・引用箇所の対応表と、引用文献の該当箇所（原図と段落番号つき）が手に入る。担当者は読み始める前に、どこを疑うかを決められる。
- **検証しながら読める**　マニュアルは、文献の記載事項、審査官の判断、AI の解釈を分けて出力させることを勧めている [4)]。この分け方は、引用発明の認定の誤りや、組合せの動機付けの弱さを探す作業に合う。
- **周辺情報をその場で引ける**　日本と米国の包袋から請求項の変遷や意見書での主張を整理でき、審査官別・分野別の傾向分析も活用例に挙げられている [13)]。
- **AI の限界が成果物に組み込まれた**　Agent の意見書案は「確認できていない点」を分けて示す [3)]。人が確かめるべき箇所が最初から見える。

【事実】変わらない点もある。出力される意見書案・補正書案はそのまま提出できる書類ではなく、弁理士の監督の下で整えて提出するようマニュアルに明記されている [24]。研究面でも、実際の 480 件を使って審査の全過程（拒絶理由の作成と出願人の応答）を評価するベンチマーク PatRe が、大規模言語モデルには法的推論と技術的な新規性の判断で可能性と限界の両方があると報告している [26]。

3.4 限界と未確認事項

- 【未確認】Agent は β 版で、提供開始から数日しか経っていない。独立した第三者による評価やレビューは、本調査の範囲では確認できなかった。
- 【事実】効果を示すデータ（アンケート、競技大会の過去問検証）は、いずれも同社による発表である [1),10)]。
- 【事実】経過情報の「状態」「段階」は特許庁が提供するリーガルステータスの表示であり、サマリアが権利の有効性を判定したものではない。空欄は未収録などの可能性があり、「審判なし」「権利消滅」と読んではならない [4),6)]。
- 【事実】中国・韓国の公報は、翻訳文が概ね月次の更新で、原文の収録は 2026 年以降の分である [27)]。料金改定の告知では、中国・韓国・台湾の全文検索への対応が今後の計画に挙げられている [7)]。【分析】これらの国を対象とする網羅調査は、当面、他のデータベースとの併用が前提になる。
- 【事実】日本の包袋の取得は、利用者自身が特許庁から発行を受けた API の ID・パスワードに依存する [13)]。特許庁の API は試行提供で、アクセス数に上限があり、利用登録が必要である [28)]。【分析】多数の包袋をまとめて分析する使い方には、この上限が制約になる。

4 新しい AI 活用法の考察

【分析】本章の 12 案は、公開情報で確認できた機能を前提に筆者が考えた活用法である。効果は検証していない。試行のうえ、自社の基準で評価されたい。

4.1 特許調査

① 検索式の「品質診断」を定常業務にする

- **狙い**　検索式の妥当性を、件数とノイズ率で説明できるようにする。

- **進め方**　条件ごとの単独ヒット数、AND 条件で 0 件になった原因、サンプル査読によるノイズ含有率を AI に算出させる [4),1)]。Agent の「調査の経過」（検索式・件数）は、調査報告書の検索履歴欄にそのまま添える。
- **留意点**　件数は実行日とセットで記録する。未取得のデータを 0 件として扱わせない指示を定型にしておく [4)]。

② 「探索→網羅→査読」の三段運用

- **狙い**　対話の速さと、正式な調査に求められる網羅性を両立させる。
- **進め方**　MCP／Agent で観点と語彙を固め、得られた検索式と公報番号を本体の調査支援ツールに引き継いで母集団を作り、スクリーニングツールで査読する [17)]。指示数を消費しない MCP は、試行錯誤の段階に向く [12)]。
- **留意点**　MCP の類語辞書は軽量版で、本体の辞書とは別物である [12),18)]。対話で見つからなかったことを、網羅調査の結論にしない。

③ 開発者のセルフ調査と知財部門のレビュー

- **狙い**　発明提案の前に開発者自身が先行文献を把握し、提案の質を上げる。
- **進め方**　設定のいらない Agent を開発部門の入口とし [3)]、発明メモを添付して近い公報と相違点を得る。知財部門は「調査の経過」を見て観点の漏れを指摘し、必要な案件だけを正式な調査に進める。
- **留意点**　指示数の配分ルールを決めておく。「見つからない」は「存在しない」を意味しない [20)]ことを、利用者教育に含める。

④ 新着公報・審査経過・権利状態の定点観測

- **狙い**　SDI を「検索結果の配信」から「読める要約レポート」に変える。
- **進め方**　スケジュール実行のできる AI アプリと MCP を組み合わせ、新着公報の週次レポートを自動で作る（実例がある [22)]）。同じ仕組みで、競合の重要出願の審査経過（拒絶理由と補正）や権利状態の変化も定期確認の対象にする。
- **留意点**　公開直後は外部サイトへの反映が遅れることがあり、一度に取得する件数も絞る必要がある [22)]。変化を検知したら一次情報で確かめる。

⑤ 権利状態と審査経過を織り込んだ FTO の一次評価

- **狙い**　文言上の該否だけでなく、「権利が生きているか」「審査で範囲を狭めていないか」を最初の一覧に含める。
- **進め方**　抽出した他社特許ごとに、経過情報・リーガルステータスと、包袋から読み取れる補正や意見書の主張を取得し [4),6)]、対比表に「存続状況」「審査経過での限定」の列を加える。
- **留意点**　状態表示は目安であり、空欄は消滅を意味しない [4)]。審査経過にもとづく限定解釈が成り立つかは法的判断であり、専門家が確認する。

⑥ 審査経過を起点にした無効資料調査

- **狙い**　審査で特許性の決め手になった構成に、調査の資源を集中する。
- **進め方**　対象特許の包袋から、引用された文献と、審査官が相違点と認めた構成を整理し、その相違点を調査観点にして検索する。米国の対応出願の包袋は申請なしで取得できる [13)]ので、そこで引用された文献も候補に加える。
- **留意点**　日本の包袋の取得には、特許庁 API の利用登録と設定が要る [13),28)]。

⑦ 特許・意匠・商標の横断分析

- **狙い**　競合の事業化の兆しを、技術以外の出願からも読む。
- **進め方**　競合の年別出願件数を特許・意匠・商標で並べ [4)]、技術開発（特許）からデザイン（意匠）、ネーミング（商標）への時間差を見る。
- **留意点**　MCP が対応する意匠・商標は日本分である [5)]。

4.2　拒絶理由通知対応

⑧「三層分離」を応答検討の標準書式にする

- **狙い**　審査官の認定と、引用文献の実際の記載とのずれを、最初の資料で見えるようにする。
- **進め方**　文献の記載事項、審査官の判断、AIの解釈を列で分けた対比表を、最初に作らせる。これはマニュアルが勧める出力の分け方である [4)]。
- **留意点**　AI の解釈の列は仮説として扱い、採否は担当者が原文で決める。

⑨ 引用発明の認定を原文・図面で照合する

- **狙い**　認定の誤りや、組合せの動機付けの弱さを早く見つける。

- **進め方**　審査官が指摘する段落と図面を Agent に取得させ、原図と段落番号つきで本願請求項の各構成と突き合わせる [3]。「引用文献に記載のない構成」「組合せを妨げる記載」の候補を挙げさせる。
- **留意点**　候補は必ず原文で確かめる。拒絶支援ワークフローの解析レポートにも、認定の誤りや阻害要因を扱う項目がある [23]ので、精密に詰める段階ではそちらを使う。

⑩ 応答方針を複数案で比較する

- **狙い**　補正の要否を、権利範囲への影響と合わせて判断する。
- **進め方**　補正なしの反論、減縮補正と反論、分割出願の併用といった案ごとに、補正の根拠段落、権利範囲への影響、想定される再度の指摘を表にまとめさせる。既存の応答方針コメント（最大 5 案）[24]と見比べる。
- **留意点**　事業上どの範囲を守るべきかは、AI には分からない。製品や競合の情報を添えて指示する。

⑪ 包袋を応答のナレッジにする

- **狙い**　個人の経験に頼っていた「通りやすい主張」を、組織の知識にする。
- **進め方**　自社の過去案件や同じ技術分野の包袋から、受け入れられた主張と退けられた主張の型を整理し、次の応答の初期方針づくりに使う。審査官別・分野別の傾向分析は、同社も活用例に挙げている [13]。
- **留意点**　特許庁の API にはアクセス数の上限がある [28]。対象を絞って計画的に取得する。

⑫ 出願前の「仮想拒絶」

- **狙い**　拒絶理由への備えを、出願の時点に前倒しする。
- **進め方**　クレーム案を添付して近い公報を探させ、想定される新規性・進歩性の指摘と、それに備えて明細書に書いておくべき下位概念や実施例を挙げさせる。
- **留意点**　未公開の発明を入力するため、第 5 章の取扱いルールに従う。

4.3　組織としての使いこなし

【分析】アンケートで最も求められたのは、業務別のプロンプト例集（13 件）と回答例付きのサンプル集（11 件）だった [1]。機能が横並びになっていくなかで差がつくのは、自社の調査基

準や報告様式を織り込んだ指示文を標準化し、共有できているかどうかである。観点の分解、三層分離、未取得を 0 件としない、といった指示を部門の共有資産にしたい。

【分析】あわせて、どの場面でどの入口を使うかの基準を決めておくと、費用と情報管理の両面で迷いが減る。表 7 に一案を示す。

表 7　場面別の入口の使い分け（筆者案）

場面	勧める入口	理由
公開情報だけを使う探索、動向の把握	サマリア MCP	指示数を消費せず、条件を変えて何度も試せる
未公開の発明メモや製品仕様を添付する調査	外部 AI への入力が社内規程で認められていれば MCP、認められていなければ Agent	データの流れが異なる（表 3）
網羅性が必要な調査（出願前調査の最終版、侵害予防、無効資料）	本体の調査支援ツール（探索は MCP／Agent）	本体版の類語辞書と一括処理を使える
拒絶理由通知の初動の整理	Agent または MCP	通知書の添付から対応表の作成までが一続きで進む
提出書面のドラフト	拒絶支援ワークフローとエージェント機能（弁理士の監督の下で）	校閲記録とチェックリストが付く

5　導入・運用上の留意点

5.1　セキュリティと社内承認

【事実】MCP 導入時の最大の壁は、社内のセキュリティ・情報システム部門の承認だった（17 件中 7 件）[1]。MCP 一般については、OWASP がツールの説明文に悪意ある指示を仕込む攻撃（ツールポイズニング）や、取得したデータを経由するプロンプトインジェクションなどを主要なリスクに挙げ [29]、Cloud Security Alliance は認証、ツールの完全性、セッション管理などを重ねる多層防御を求めている [30]。

【分析】サマリア MCP は参照専用、OAuth 認証、ZDR、国内リージョンという構成で、サーバ側のリスクは抑えられている。残る論点は、(1) AI アプリ側に入力した発明メモなどの取扱い（各アプリの契約条件による）、(2) 同じ AI アプリにメールや社内文書など他のコネクタを同時に接続した場合の複合的なリスク、(3) 利用ログの管理、の 3 つである。データの流れ、保持の

有無、権限の範囲、ログの取得方法を 1 枚にまとめた説明資料があると、審査は進めやすい。アンケートでも、稟議・セキュリティ審査用の説明資料を求める声が 5 件あった [1]。

5.2　未公開発明の取扱い

【事実】同社の FAQ は、入力データは秘密の状態で保管され、生成 AI 事業者の API に送られる部分も学習には使われないため、未出願の明細書をアップロードしても新規性を失わないとの見解を示している [19]。

【分析】これは同社の見解であり、MCP を経由する場合は、AI アプリ事業者との契約条件が別に関わる。「どの入口に何を入力してよいか」を社内規程で明文化しておくことが望ましい。

5.3　弁理士法第 75 条

【事実】弁理士法第 75 条は、弁理士・弁理士法人でない者が、他人の求めに応じ報酬を得て、特許庁における手続の代理、鑑定、政令で定める書類の作成などを業とすることを禁じており、違反には罰則がある [31]。経済産業省は 2018 年、利用者が自らの判断で商標登録出願書類を作成することを支援するソフトウェアの提供は同条に違反しないと回答した（照会された事業に限った判断である）[32]。サマリアは 2026 年 6 月、利用規約の改定、注意喚起の表示、ダウンロード前の確認を実装している [9]。

【分析】企業が自社の案件に使うかぎり論点は小さい。しかし、グループ会社や顧客の案件の書面を AI で作り、対価を得る形になる場合は注意が要る。意見書案を成果物として出力できる Agent の登場で、「誰の案件を、誰の監督で作るか」の整理はいっそう重要になった。法的な評価は個別の事情によるため、判断は弁理士・弁護士に確認されたい。

5.4　費用

【事実】コーポレートライセンスは、年間契約で月額 25,000 円相当、30 日あたり 2,000 指示である [33]。2027 年 2 月 1 日以降はプラン料金・追加指示料金とも 20%の値上げとなり、コーポレートの年間契約は 30 万円から 36 万円になる。使える指示数と機能は変わらない [7]。AI モデルによって 1 回の指示で消費する指示数は異なり、一覧では 6 分の 1 から 15 までの幅がある [34]。

【分析】MCP は指示数を消費せず、Agent と本体は消費する。探索は MCP に寄せ、指示数は成果物づくりと網羅処理に充てる設計が経済的である。ただし、MCP には AI アプリ側の契約費用が別にかかる。

6　競合動向の中での位置づけ

【事実】特許データベースの MCP 対応は、サマリアだけの動きではない。AI Samurai は 2026 年 7 月 2 日、Claude などの生成 AI と日本・米国・中国の特許データを直結する「IP Samurai MCP サーバー」を発表した [35]。Patsnap は 31 の MCP サーバーを公開していると説明している [36]。Patentfield も、公式 note で API と MCP による知財 AI エージェントの開発例を紹介している [37]。

【分析】MCP 対応は、差別化の材料から標準装備へ向かっている。そのなかでサマリアの特徴は、(1) 包袋、経過情報、配列表、意匠・商標まで取得対象が広い、(2) 審査官の認定事例にもとづく類語辞書を持つ、(3) ZDR・国内リージョン・参照専用というセキュリティ構成、(4) 既存ライセンスの範囲内で追加費用がかからない、(5) MCP を使えない企業に Agent という別の入口を用意した、の 5 点である。なお、AI Samurai の MCP サーバーは 10ID で年間 120 万円（税別）と報じられているが [38]、これは二次情報であり、原リリースでは【未確認】である。

【事実】特許庁も、2025 年 6 月公表のアクション・プラン改定版で、先行技術調査の検索手法の高度化を導入フェーズに移すなど、審査での AI 活用を進めている [39]。【分析】審査する側と出願する側の双方が AI で調べる時代には、出願人側にとって「検索の過程を説明できること」と「審査官の認定を原文で検証できること」の価値が上がる。

7　まとめと今後の注目点

【分析】サマリア MCP とサマリア Agent は、特許データベースを「専門家が検索式で引く道具」から「誰でも文章で問い、根拠と過程を確かめられる基盤」へ変えるものである。特許調査では探索が速くなり、検索式の品質を数字で語れるようになる。拒絶理由通知対応では初動の整理が速くなり、認定の検証と方針の決定に時間を使えるようになる。一方、網羅性の確保、原文

の確認、法的な判断は引き続き人の仕事である。この分担を明文化した組織ほど、効果を得やすい。

今後の注目点は次のとおりである。

- Agent の正式版への移行時期と、指示数の実際の消費水準
- 利用者による独立した検証（とくに拒絶理由通知対応での品質）
- 中国・韓国・台湾の全文検索への対応 [7)]
- 業務別プロンプト例集や動画講座の拡充 [1),6)]
- 他社の MCP・エージェント対応の進展と、価格面の競争

参考文献

URL はいずれも 2026 年 11 月 20 日に閲覧した。＊印は、全文ではなく検索結果に表示された抜粋で内容を確認したものである。

1) パテント・インテグレーション株式会社「生成 AI で特許調査はどう変わる？サマリア MCP 利用者アンケート、14 件が週数回以上利用し満足度は平均 4.41 点」PR TIMES、2026 年 11 月 10 日（添付資料） https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000031.000086119.html

2) パテント・インテグレーション株式会社「生成 AI で特許業務を効率化する「サマリア」、MCP に対応。Claude・ChatGPT・Copilot・Gemini Enterprise からサマリアデータベースへ直接アクセス可能に」PR TIMES、2026 年 9 月 8 日 https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000029.000086119.html

3) パテント・インテグレーション株式会社「生成 AI で特許調査・拒絶理由通知への対応を効率化。検索式・件数・公報の図面まで確認できる AI エージェント「サマリア Agent」を提供開始」PR TIMES、2026 年 11 月 19 日（添付資料） https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000033.000086119.html

4) サマリア利用マニュアル「サマリア MCP の活用方法」 https://patent-i.com/summaria/manual/mcp_usage_1

5) サマリア リリースノート「サマリア MCP のアップデート（完全 ZDR 対応・配列表など）、明細書作成支援機能のアップデート」2026 年 10 月 27 日 https://patent-i.com/summaria/manual/R_20261027

6) サマリア リリースノート「新機能「サマリア Agent」・サマリア動画講座の公開、INPADOC リーガルステータスの搭載」2026 年 11 月 18 日 https://patent-i.com/summaria/manual/R_20261118

7) サマリア リリースノート「サマリアの料金改定のお知らせ（2027 年 2 月 1 日より）」2026 年 11 月 17 日 https://patent-i.com/summaria/manual/R_20261117

8) パテント・インテグレーション株式会社「特許検索競技大会の問題に「サマリア」が挑戦。集合上位100件について85%以上の再現率を達成！」PR TIMES、2026年2月12日＊ https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018.000086119.html

9) パテント・インテグレーション株式会社「特許読解支援AIアシスタント「サマリア」、弁理士法対応を強化」PR TIMES、2026年6月24日 https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000026.000086119.html

10) パテント・インテグレーション株式会社「生成AIによる特許調査サービス「サマリア」、特許検索競技大会の過去問検証で電気/機械/化学・医薬の3分野で再現率100%(上位30件)を達成」PR TIMES、2026年9月10日 https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000028.000086119.html

11) Model Context Protocol 公式ドキュメント “What is the Model Context Protocol (MCP)?” https://modelcontextprotocol.io/docs/getting-started/intro

12) サマリア利用マニュアル「サマリア MCP（概要・連携）」 https://patent-i.com/summaria/manual/mcp

13) サマリア利用マニュアル「審査経過の包袋情報の取得・活用」 https://patent-i.com/summaria/manual/file_wrapper

14) サマリア利用マニュアル「サマリア MCP（Microsoft 365 Copilot 連携方法）」 https://patent-i.com/summaria/manual/mcp_2

15) サマリア利用マニュアル「サマリア AI」 https://patent-i.com/summaria/manual/summaria_ai

16) サマリア利用マニュアル「拒絶支援ワークフローの実行」 https://patent-i.com/summaria/manual/oawf_input

17) サマリア利用マニュアル「調査支援ツール」 https://patent-i.com/summaria/manual/research

18) サマリア利用マニュアル「類語シソーラス拡張」 https://patent-i.com/summaria/manual/recognition_thesaurus

19) サマリア利用マニュアル「よくあるご質問（セキュリティ関連）」 https://patent-i.com/summaria/manual/faq

20) 大瀬佳之「生成AIは特許調査に使える？ChatGPT・Claude・Geminiと特許DBの違い」note、2026年7月28日 https://note.com/ose_yosshy/n/n53733218661a

21) 角渕由英「いつもの生成AIにサマリア MCPをつなぐと特許調査はここまで深くなる」note（2026年9月17日の講演にもとづく記事） https://note.com/tsunobuchi/n/nc8a2c1b63306

22) 熊巳創「サマリア MCPで公開特許公報を新聞のように読もう」note、2026年9月18日 https://note.com/hajime_kumami/n/nc871e42773fd

23) サマリア利用マニュアル「拒絶支援ワークフロー機能」 https://patent-i.com/summaria/manual/oawf

24) サマリア利用マニュアル「拒絶解析レポートの活用（応答方針・意見書案・補正書案作成）」 https://patent-i.com/summaria/manual/oawf_utilize

25) サマリア利用マニュアル「エージェント機能（ドラフト作成・中間系）」 https://patent-i.com/summaria/manual/agent_feature_3

26) Q. Wang et al., “PatRe: A Full-Stage Office Action and Rebuttal Generation Benchmark for Patent Examination,” arXiv:2605.03571、2026 年 5 月 5 日（アブストラクトで確認） https://arxiv.org/abs/2605.03571

27) サマリア利用マニュアル「収録公報・公報番号の仕様」 https://patent-i.com/summaria/manual/database

28) 特許庁「API を利用した特許情報の試行提供」＊ https://www.jpo.go.jp/system/laws/sesaku/data/api-provision.html

29) OWASP “OWASP MCP Top 10”（ベータ版）＊ https://owasp.org/www-project-mcp-top-10/

30) Cloud Security Alliance “Agentic MCP Security Best Practices Guide”（ドラフト、2026 年 3 月 27 日）＊ https://labs.cloudsecurityalliance.org/agentic/agentic-mcp-security-best-practices-v1/

31) 弁理士法（平成 12 年法律第 49 号）第 75 条・第 79 条（日本法令外国語訳データベースシステム） https://www.japaneselawtranslation.go.jp/ja/laws/view/5053

32) 経済産業省「グレーゾーン解消制度に係る事業者からの照会に対し回答がありました～商標登録出願書類等を利用者自らが作成することを支援するソフトウェアの有償での提供について～」2018 年 10 月 9 日＊ https://www.meti.go.jp/policy/jigyou_saisei/kyousouryoku_kyouka/shinjigyo-kaitakuseidosuishin/press/181009_press.pdf

33) サマリア公式サイト（料金プラン・導入実績） https://summaria.jp/

34) サマリア利用マニュアル「ＡＩモデル一覧」 https://patent-i.com/summaria/manual/available_models

35) 株式会社 AI Samurai「AI が特許 DB を自由自在に操る時代へ。企業の生産性を圧倒的に高める「知財 AI エージェント」提供開始」PR TIMES、2026 年 7 月 2 日 https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000300.000021559.html

36) Patsnap “AI Tools for IP Teams: Why Patent Work Needs a Different Stack in 2026”＊ https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/ai-tools-for-ip-teams-2026/

37) Patentfield 執筆担当 “Developing an ‘Intellectual Property AI Agent’ with Patentfield API and MCP (Part 2)”（英語表示版のタイトル）note、2026 年 2 月 25 日＊ https://note.com/super_whale150/n/n3620fe9b593a

38) VOIX「株式会社 AI Samurai が提供する知財 AI エージェント「AI Samurai MCP サーバー」の無料トライアル開始」（二次情報）＊ https://voix.jp/?p=119553

39） 櫛引明佳・五十嵐康弘「特許庁における AI 活用の現状とマルチモーダル技術の産業財産権制度への影響について」Japio YEAR BOOK 2025＊
https://japio.or.jp/00yearbook/files/2025book/25_a_03.pdf